

社 教 連 会 報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル 7階 TEL 03-6380-8540

《目次》

- 令和6年度事務局担当者会議報告
- 第66回全国大会茨城大会報告
- 第67回全国大会岩手大会ご案内
- 令和6年度地区別社会教育研究大会 報告
- 北から南から
 - 福島県市町村社会教育委員連絡協議会
会長 猪股純一
 - 和歌山県社会教育委員連絡協議会
会長 辻 敏弘
 - 島根県社会教育委員連絡協議会
会長 有馬毅一郎
- 理事会・総会報告など

第69回全国大会（令和9年度）は
愛知県で開催

第69回全国社会教育研究大会は東海北陸地区・愛知県で開催することが、先の総会で決定しました。具体的な日程や開催地などはこれから愛知県社会教育委員連絡協議会や近畿地区で検討され、総会等で報告・承認されていきます。

また、令和7・8年度全国大会及び地区大会の開催予定情報をホームページに掲載しています。適宜更新していきますので、ぜひご覧ください。

令和6年度

事務局担当者会議を開催

都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議（以下「担当者会議」）を、第66回全国社会教育研究大会茨城大会の初日（令和6年10月23日（水））に、茨城県水戸生涯学習センターを会場にして開催しました。

出席者数は29府県・市から計41名でした。

今回の会議内容は、都道府県・政令指定都市（以下「都道府県等」）の社会教育委員連絡協議会の事務局担当者が、①組織の構成員や形態は多様であること、②事業や運営もさまざまであることの2点の理解を深めることを目的に、事例発表と意見交換を内容としました。

事例発表は、一名は4月の機構改革で社会教育行政部署が教育研究所に移ったことに加え、事務局担当者の経験が比較的長い奈良県に、もう一名は県公民館連絡協議会事務局と一体の組織で運営し、市役所の生涯学習課に事務局を置く岩手県に発表をしていただきました。

・奈良県社会教育委員連絡協議会事務局 西英樹氏
・岩手県社会教育連絡協議会事務局 津久井絵理子氏

発表の内容は以下を中心に行われました。

(1) 社会教育連絡協議会の概要

- ① 組織、構成メンバーなど
- ② 会長等役員の決め方、会費負担
- ③ 基本的なデータ把握など、県教委との分担
- ④ 地区の数と地区での活動など

- (2) 理事会・総会等会議の名称と年間の回数・形態
- (3) 事業

- ① 研修—回数・対象・形態など
- ② 刊行物—会報や手引き等の発行
- ④ 各地区の活動・会議の回数等

これらの事例発表をともに、質疑応答、出席者による事例報告、意見交換が行われました。

特に、都道府県等のブロック



分けの有無、社会教育委員対象研修の企画立案の方法・回数、岩手県社会教育連絡協議会の運営への県教育委員会による支援方法などの情報や意見の交換が活発に行われました。

終了後には、出席者から「他県の事例がもっと聞きたかった」、「研修の企画や実施の方法が県によって異なることを知った」などの感想をうかがいました。

この担当者会議は全国の都道府県等の事務局担当者一堂に会して情報交換や協議を行う貴重な機会となっています。今年度の全国大会岩手大会の初日にも開催いたしますので、ぜひご出席ください。

(常務理事 稲葉隆)

第66回全国社会教育研究大会茨城大会を終えて

第66回全国社会教育研究大会茨城大会
実行委員会委員長 稲葉 里子

第66回全国社会教育研究大会茨城大会、第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会、第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会は、令和6年10月23日から25日の3日間にあたり、水戸市民会館において、全国各地から1,000人以上の参加を得て、開催いたしました。

今大会は、「^{しょうがこうらい}彰往考来」人をつくり人をつなぎ地域をつくる未来の社会教育」をスローガンに、研究主題を「誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方」子どもの健全な成長を支える」とし、社会的包摂を意識しつつ、次代の社会を担う「子どもたち」の育成に焦点を当て、皆様とともに学び合える場を設定いたしました。

歓迎アトラクションでは、「子ども梅大使」として偕楽園でのおもてなしボランティア活動を行っている水戸市立五軒小学校5、6

年児童が「合唱」と「偕楽園記暗唱」を行いました。水戸の歴史を大事にし、堂々と発表する姿に、感動したと多くの声をいただきました。

開会行事後は、「あなたの知らない名字の世界」名字には隠れた日本文化がある」と題し、多くのメディアに御出演されている名字研究家の高信幸男氏による記念講演を行いました。全国の珍しい名字を取り上げていただきながら、名字と地域の関係性や、地域特有の名字の成り立ちなどについてユーモアたっぷりにお話をいただきました。普段ならあまり気にすることのないであろう身近な名字から、今まで以上に地域への関心を高めるきっかけとなりました。

続くシンポジウムは、「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるのか」をテーマに実施いたしました。コーディネーターの金藤ふゆ子氏の進行のもと、前半は横田能洋氏、長谷川馨氏、



早川愛氏の3名のシンポジストより、それぞれの視点からの話題を提供していただき、後半は登壇者同士の意見交換を中心に協議を進めていただきました。シンポジウムをとおして、視野を広げ地域を俯瞰するとともに、連携の大切さ等、これからの活動への示唆を示せたのではと考えます。

分科会では、「地域と学校の連携・協働」、「家庭教育の充実支援」、「若者の主体的活動の促進」、「社

会的包摂の実現」、「社会教育委員の役割」と5つのテーマを設定させていただき、優れた実践事例の発表と御参加いただいた皆様の活発な意見交換が展開されました。登壇者と参加者が一体となり、地域が抱える課題について考え、取組の視点や方法を探りながら学びを深める姿が見られたことは、主催者として嬉しいかぎりでした。

3日間の大会を通して、「良い学びになった」「刺激になり、頑張ろうと思った」等の好意的なお言葉を多数いただきました。本大会が、皆様の新たな気付きや都道府県の枠を超えたネットワークづくりに寄与することができたのであれば幸いです。

「茨城に来て本当によかった」と思っていたただける大会にしようとして、約2年間準備を進め、当日も「オール茨城」を合言葉に取り組んだ茨城県内各市町村の社会教育委員や関係職員、社会教育関係者の皆様をはじめ、協力し支えてくださった社教連の皆様、全国から参加くださった皆様に、心より感謝と御礼を申し上げます。

また、来年度の岩手大会が、全国から多くの方々が参加され、充実した大会となりますことをご祈念申し上げます。

ご案内

第67回全国社会教育研究大会岩手大会

令和7年度東北地区社会教育研究大会・第70回東北地区公民館大会

第71回岩手県公民館・令和7年度岩手県社会教育委員研究大会



学びと絆で未来を拓く！ 社会教育のイーハトーブをめざして in いわて

岩手山を中心に広がる山々。海と陸が織りなす造形が美しい三陸海岸。世界遺産「平泉」や「橋野鉄鉱山」、「御所野遺跡」などの歴史と文化を物語る多くの史跡。さらに県内各地に点在する温泉郷では、日々の疲れを癒してくれる宿が人々を温かく迎え入れてくれます。この岩手県に、全国の社会教育関係者が一堂に会し、共に学び、絆を深め、地域の未来のために語り合うことができるのは何よりの喜びであり、私たちの幸せです。

さて、現代の社会は、人と人との「つながり」の希薄化、困難な状況にある人々に関する課題が顕在化・深刻化しており、社会教育が果たす役割はますます重要になっています。

そのような状況の中で開催される今大会の研究主題「共に学び支えあう社会教育の実践」は、個人の幸せとともに、地域が幸せや豊かさを感じられるものとなるウェルビーイングの実現のために、着実に取組を「実践」していこうとする私たちの決意でもあります。

文学、農業、教育、地質学などさまざまな分野に才能を発揮した岩手の偉人・宮沢賢治は詩「雨ニモマケズ」の中で「東ニ病氣ノコドモアレバ「行ッテ」看病シテヤリ」と記しています。宮沢賢治は、イーハトーブという理想郷の実現のために、課題解決への対策を「実践」することが大切だと考えていたのではないのでしょうか。

この大会では、社会教育委員をはじめ社会教育に携わる仲間たちが、地域の幸せを願い、より良くしていこうとする実践を共有したいと思います。そして、「自分たちが学び、発見したことを地域の課題解決にも生かすことができる」という社会教育の魅力と可能性を実感できる大会にしていきたいと考えます。

岩手県社会教育連絡協議会会長

第67回全国社会教育研究大会岩手大会実行委員会委員長 大橋 清司

●大会の概要

- 研究主題 共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けて～
- 期 日 令和7年10月29日(水)～31日(金)
- 会 場 盛岡市民文化ホール大ホール(盛岡市盛岡駅西通2-9-1)ほか
- 参加費 一人 5,000円(大会資料代)
- 大会日程

【1日目】 10/29 (水)					全国社会教育 委員連合 理事会 14:00～15:30	都道府県・政令指定都市 社会教育委員連絡協議会等 事務局担当者会議 16:00～17:30			
【2日目】 10/30 (木)	全国社会 教育委員 連合総会 10:00～ 11:30	受付 11:30～12:30	全体会					東北社連 東北公連 理事会 17:45～18:15	情報 交換会 18:30～20:30
			アトラ クシ ョ ン 12:30～ 12:50	開会行事 表彰式 13:00～13:50	記念講演 14:00～15:20	シンポジウム 15:30～16:50	閉会 行事 17:15 終了		
【3日目】 10/31 (金)	受付 9:00～ 9:30	分科会 9:30～12:00	分科会テーマ						
			第1分科会	社会教育委員の役割					
			第2分科会	家庭教育支援					
			第3分科会	学校・地域の連携・協働					
			第4分科会	人づくり・つながりづくり・地域づくり					
			第5分科会	公民館（社会教育施設）の役割					

社会教育研究大会報告

北海道地区

地域コミュニティと

これからの社会教育

〈これからの社会教育委員に
求められるもの〉

第63回北海道社会教育研究大会（オホーツク大会）は、11月1日、2日に網走市において379名の参加を得て、5年ぶりに対面で開催し盛り上がりを見せました。

1日目は、地元女声コーラスの美しい歌声で迎えられ、開会式・永年勤続功労表彰式の後、若宮正子氏の特別講演ではデジタル生活の体験から年齢に関係なく人生を豊かにするため学び続ける大切さについて気づきを頂きました。

パネルディスカッションは、管内の女性社会教育委員がパネラーとなり社会教育委員のやりがいや存在意義

などについて熱く語り合いました。
2日目は、4分科会でそれぞれの個別テーマと「社会教



育委員の存在理由」の共通テーマについて、活発な意見交換・討議が行われました。

今大会は、社会教育の基盤となる「学びを通じた地域コミュニティの強化」を通して参加者同士が情報共有を図り、学びを通じてこれからの社会教育活動について考えました。大会の成果が課題解決や活性化につながることを願うとともに、皆様のご参加・ご協力に感謝申し上げます。

第63回北海道社会教育研究大会

（オホーツク大会）

大会長 岩野 真志

東北地区

学びを生かし、つながりを
つくり出す社会教育の実践

令和6年度東北地区社会教育研究大会は全国公民館研究会及び東北地区公民館大会と合同開催にて11月14・15日に青森県青森市で開催しました。参加者は2日間で延べ約680人となり、盛大に行うことができました。

1日目は歓迎アトラクションとして、五所川原第一高等学校津軽三味線部の皆様に力強さと若々しさのあふれる音色を奏でていただきました。

記念講

演では、

オリン

ピックや

世界選手

権で活躍

した福士

加代子氏

から、幼

少期から

高校生ま

で過ごし

た青森や実業団で得たつながりに

ついて会場全体を笑顔であふれさ

せる軽快なトークで学ばせていた

だきました。

2日目は5つの分科会に分かれ、事例発表と参加者との意見交換を通して、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上を目指すための方策について学び合いました。

最後に、今大会を開催できたのは、ひとえに学びたいと強い思いを持って御参加いただきました皆様、大会の準備や運営に携わっていただきました関係者の皆様のお陰であると心より感謝申し上げます。

令和6年度東北地区社会教育研究

大会実行委員会

実行委員長 白川喜代美

東海北陸地区

目指そう！

ウェルビーイングな社会

〈家庭や地域の
教育力向上を通して〉

第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会は、第52回富山県社会教育大会と合同開催で10月10日・11日に富山県民会館で開催しました。2日間延べ1,100名を超える参加となり、盛大に開催することができました。

初日の歓迎アトラクションでは、越中五箇山こきりこ唄保存会の皆様に、富山県南砺市の五箇山地方に伝わる日本で最も古い民謡の一つである「こきりこ」を披露していただきました。記念講演は、富山県在住のフォトグラファターのイナガキヤスト氏を講師に「未来まで残したい『富山の本気』」と題し、イナガキさんの写真を交えながら、米原由紀子氏との対談形式で行われました。

2日目は、5つの分科会に分かれ、6県1市からの話題提供に基づき、活発な協議や意見交換が行われました。

2日間を通して、ウェルビーイングの向上に向けた新たな社会教育の振興方策について研鑽を深め、

社会教育委員の果たす役割が重要であることを確認することができました。

本大会にご参加・ご協力

いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。

第55回東海北陸社会教育研究大会
富山大会実行委員会

実行委員長 山西 潤一



近畿地区
**人がつながりあう地域を
めざして**
「ウェルビーイングを高める
社会教育のあり方」

令和6年度近畿地区社会教育研究大会京都大会は、9月6日に京都テルサを会場に700名を超える参加を得て開催することができました。

午前中の全体会では、公益財団法人鷹山保存会の皆様により祇園囃子の生演奏を披露いただくとともに、「祇園祭『鷹山』196年



ぶりの復活！人がつながり、想いをつなぐ」と題して記念講演をいただきました。

また、午後からは5つの分科会で近畿各府県からの実践事例の発表があり、これを受けて参加者間で活発な討議・意見交流が行われました。今後の地域での活動に、多くの示唆を得ることができました。

実行委員会では、「つながり」京都らしさ「おもてなしの心」を大切に本大会を進めて参りました。御参加いただいた皆様にその思いを少しでも感じていただけたなら幸いです。

最後に、御参加いただきました皆様、大会の準備や運営に御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年度近畿地区社会教育研究大会
京都大会実行委員会

実行委員長 京谷 安泰

中国・四国地区
「阿波から巡り共に歩もう」
学び 支え つながる社会教育

徳島市のあわぎんホールで、11月28・29日、600名を超える参加者を迎え、第46回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会を開催しました。

大会1日目は、県立徳島商業高等学校阿波踊り部による、雄大かつ繊細な演舞で幕を開けました。

基調講演では、なぜ、過疎の町である神山町に、最先端の高専が誕生したのかを、その仕掛け人 大南 信也氏にお話いただきました。地域の未来に展望を開く希望に満ちたお話でした。続くパネルディスカッションでは、阪根 健二 鳴門教育大学特命教授をコーディネーターに、3名の地域づくり実践者をパネリストに迎え、「誰かが輝く、ウェルビーイングの社会



をめざして」をテーマに、議論を深めていきました。

2日目は、4つの分科会に別れ、各分科会で、県外及び県内の各2つの事例が報告され、熱心に協議が行われました。

今大会の学びあいの中で得られた知見が、参加者各位の参考となりましたら幸いです。また、大会開催にご支援・ご協力いただきました皆様には心から感謝申し上げます。

第46回中国・四国地区社会教育研究大会
徳島大会実行委員会

実行委員長 馬場祐次朗

九州地区
**未来に向かう社会教育の
風は南から**
「自治と協働の力を育む
これからの人づくり・つな
がりづくり・地域づくり」

第54回九州ブロック社会教育研究大会を、標題の研究テーマのもと、11月7・8日に鹿児島県鹿児島市において、600人を超える参加を得て開催しました。

一日目の分科会では、「社会教育委員と地域コミュニティのかかわり」「これからの未来を担う人づくり」「多様な主体と連携したつながりづくり」「世代がつなが

る地域づくり」の4つをテーマとし、九州各県から実践事例を発表していただいた後、それぞれの討議の柱に沿って、熱心な研究討議が行われました。

二日目の全体会は、鹿児島県高等学校音楽部の合唱「歓迎の歌」で始まり、記念講演として「種子島アクションクラブ」代表の高磯勝俊氏が、「離島閃隊タネガシマン」による地域（離島）活性化の具体例を、楽しくそして分かりやすく話をされました。

参加者からは、「各市町の取組の事例を聴けて、大変参考になりました。」「社会教育活動の参考になり、社会教育研究大会にふさわしい講演でした。」等の感想が寄せられました。

多くの皆様の参加と御協力に感謝申し上げます。

第54回九州ブロック社会教育研究大会
鹿児島大会実行委員会

委員長 岩橋 恵子



政令指定都市大会

令和6年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会は、令和6年7月5日（金）に、WEB開催で行われました。

審議では、左記の議題1及び議題2について諮られ、両議題について承認されました。

▼議題1 提案協議議題について

開催市で割り当てた協議議題について、各都市からの回答報告書をもとに質問や意見交換を行いました。

▼議題2 一般社団法人全国社会教育委員連合表彰者の推薦について

表彰候補者4名の推薦を提案しました。

北九州市 宮本和代／相模原市 石川利江／広島市 松本直子／千葉市 三野宮純一

昨年に引き続き、WEB開催で行い、活発な意見交換が行われました。御担当者様には当会議に向けた各種資料の提出等に御協力をいただき、誠にありがとうございました。令和7年度開催都市については、開催順に基づき、神戸市となりました。

政令指定都市社会教育委員連絡協議会事務局

京都市教育委員会事務局

生涯学習推進課長 小野 優子

北から南から

地域の課題解決に向けた活動のために



福島県市町村
社会教育委員連絡協議会
会長 猪股純一

私達社会教育委員は、どのような法律の下で委嘱されたのか調べてみました。その結果次のようなことが解りました。

社会教育法第4章 社会教育委員

（社会教育委員の設置）

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

以上のように社会教育委員の設置は義務ではなく任意であることを意味しています。そのようなこともあって各地方公共団体において社会教育委員に対する認識の違い等を取り組みや活動予算に温度差があり、社会教育委員の具体的な活動はそれぞれの市町村によって異なるのではないかと考え

ております。また、社会教育委員の設置目的を考えず、その委嘱を疑問視する市町村もありました。このような状況も見られる中、私達は形骸化した社会教育委員をどのように導いていったらよいのでしょうか。私はやはり社会教育委員としての自覚（意識）を持ち、自己研鑽に努めながら活動することが大事であると考えています。少子高齢化時代の新しい地域づくりに向けた社会教育のあり方の難しさなど、社会変動が激しい現代社会にあつて、社会教育の重要性は言うまでもなく益々大きくなってきたと思います。そのような社会環境にあつて私達社会教育委員は、地域における社会教育の方向性として、中央教育審議会答申にもあるように「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに取り組む必要があります。さらに人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化、社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsに向けた取組等、持続可能な社会づくりを進めるための課題は山積しております。各地の地域課題解決のために、福島県市町村社会教育委員連絡協議会として、社会教育委員一人一人が課せられた役割への自覚を持って活動に取り組むことができるよう、サポートしていきたいと考えています。

県社連の活動報告



和歌山県社会教育委員
連絡協議会
会長 辻 敏弘

和歌山県社会教育委員連絡協議会（県社連）は県内30市町村253名（令和6年度）の社会教育委員をもって構成しています。県社連の主な事業としては、春の講演会、秋の研究大会があります。開催地は和歌山県を2分割し、紀北、紀南に分け、春は紀北地域、秋は紀南地域で行っています。春の講演会は総会と同日に開催し、和歌山県市町村社会教育主事等連絡協議会と共催しております。秋の研究大会では、前半に講演会、後半には講演を受けての意見交換のほか、日ごろ社会教育委員として活動していく中での思いや疑問点等々をワークショップ形式で共有しています。ワークショップでは、参加者の方々の意見が活発に発せられ、いつも時間が足りない状況となるため、今後、運営についても考えていかなければならないと思います。

秋の研究大会の研究主題は、2年に1度、和歌山県社会教育委員会議のテーマを取り上げることとしています。例えば、令和5年度の研究大会は、令和4・5年度の県社会教育委員会議テーマであった「社会教育施設を核とした生涯学習の在り方」を研究主題としました。本研究大会を通じて、県内各地の社会教育委員の皆様にも県の取組を伝えるとともに、和歌山県社会教育を、県社会教育委員会議と我々県社連が両輪となって充実させていくように努力しています。現在、県社会教育委員会議では、「多様なニーズに応える生涯学習の在り方」について話し合っており、県社連での今後の活動につなげていきたいと考えています。

令和7年9月5日（金）には、和歌山県民文化会館を中心に令和7年度近畿地区社会教育研究大会を開催する予定です。研究主題は「人の和と地域の和、全世代の主體的な学びを支える社会教育」として、実り多き大会になるような企画を考えている次第です。近畿地区の社会教育委員の皆様方の多数の参加を期待しておりますので、ぜひご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

地についた社会教育へ



島根県社会教育委員
連絡協議会
会長 有馬毅一郎

過去の在職40余年間は学校教育を主軸に、社会教育、家庭教育にも関わっていた。退職後は、結果として社会教育に傾注してきた。間もなく県、市の社会教育委員としての20数年も「会長」としての15年間も終える。

島根という地方にあって、長期に渡り社会教育の変遷を体感してきた、今、いくつかの思いが浮かんでいる。

昭和四、五十年代頃に実施した事業は、今から見れば潤沢とも言える予算配分があった。今、「手当」で活動する流れの中で、新たな努力と工夫が求められるようになってきている。自主的な研究・研修の機会や組織作りも進めねばと思う。

「一極集中」のありとも言える人口減少と高齢化は、想像以上の苦難を伴って末端の地域にまで浸透した。多くの組織・団体が弱体化と戦っている。「地域づくり」

のテーマが年を追って重みを増し迫ってきた。次々に中央から提案される「指針」は、キーワードが不消化のまま宙を舞い足元に十分根付かない。

子どもの育成に関しても、子どもの「囲い込み」の一律の体制づくりが入り込んで、地域の環境や資源の活用どころではない。子どもの主体性育成にも心配がある。地域にふさわしい戦略作りに意識が向かわねばならない。

近年、改めて「島根の社会教育で大切にしたいこと」をテーマに議論を重ねてきた。社会教育委員も、地域とともにあり、住民とともにあることが重要なのだ。

足元を語り合うことの有効性は、議論中の笑顔や共感の表情が立証している。島根の県民性は、元々「人とのつながり」、「思いやり」に特色と価値があると言われてきた。地元から一層鍛え直すことが大切だろう。

一昨年開催した中国・四国地区社会教育研究大会に向けては、全県の活動・研修の深化の機会ともなった。大会を終えた「直会」（大交流会）には128人の笑顔が集った。地方の地力の一端が見えていた。地についた社会教育の新たな芽生えが具体的に動き始めている。

理事会・総会報告

●令和6年度第2回理事会第2回総会の開催

令和6年度第2回理事会は、全国社会教育研究大会茨城大会の第1日目、10月23日(水)に、第2回総会は2日目、24日(木)に開催されました。

理事会及び総会の議題等は次のとおりで、いずれも承認されました。また、第3号議案の第69回全国社会教育研究大会は東海北陸地区・愛知県での開催が決定しました。

【議事】

- 第1号議案 第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について
第1号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について
第2号議案 第68回全国社会教育研究大会(大阪大会)について
第3号議案 第69回全国社会教育研究大会の開催地区について
第4号議案 理事の退任及び選任について

退任…斎藤陽子(栃木県社会教育委員協議会会長)

選任…佐竹信哉(栃木県社会教育委員協議会会長)

【報告】

○ 令和6年度社会教育委員活動活性化セミナー及び助成事業に

ついて

【その他】

○今後の総会等の日程について

事務局担当者会議を開催

第66回全国社会教育研究大会茨城大会の初日第1日目の10月23日(水)に、都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議が開催され、29府県市から41名の参加がありました。内容の概要は1ページのとおり。

今後の会議予定

◆令和7年度第1回理事会・第1回総会(総会休憩時に新理事による第2回理事会開催)

期日…令和7年5月23日(金)

時間…理事会/11時30分~13時

総会/14時30分~16時30分

会場…日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)

◆令和7年度第3回理事会

期日…令和7年10月29日(水)

時間…14時~15時30分

会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)

◆令和7年度第2回総会

期日…令和7年10月30日(木)

時間…10時~11時30分

会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)

交流センター)

◆都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議

期日…令和7年10月29日(水)

時間…16時~17時30分

会場…アイーナ(いわて県民情報交流センター)

◆令和7年度第4回理事会

期日…令和8年2月下旬

時間…理事会/11時30分~13時

総会/14時30分~16時30分(予定)

(予定)

◆令和7年度第3回総会

期日…令和8年2月下旬

時間…14時30分~16時(予定)

会場…日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)



社教情報 No.92

令和7年2月発行 360円

社会教育の明日を拓く

特集テーマ 超高齢社会と社会教育委員

《巻頭論文》 社会教育は「超高齢社会」をどう捉えるか

文教大学学園理事長 野島 正也

《特集》 神部 純一、中川 法夫、丸田 昭文、古市 勝也、生尾 光

《この人に聞く》 ソーシャルコーディネーターかながわ代表理事 手塚 明美

取材：坂口 緑

《社会教育委員の活動》 見澤 淑恵(水戸市)・早川 日出利(苫前町)

石川 賀一

《答申・提言》 指宿市社会教育委員の会議答申(令和6年3月)

宮地 孝宜

《社会教育委員Q & A》

《社会教育委員リレートーク》 群馬県から栃木県

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合

社教情報

特集：超高齢社会と社会教育委員 No.92



全国社会教育委員連合